

# 70年代トップアイドルが挑む 歌手とカラオケサロンの事業シナジー



Interview

歌手／女優

はやし

ひろこ

## 林 寛子 さん

1959年、東京都生まれ。1967年NHK連続テレビ小説「旅路」の主人公の娘役に抜擢、その後も数々のドラマ・映画に出演し、人気子役となる。1974年に歌手としてデビュー。現在はカラオケサロン「ラブリー寛寛」のオーナー経営者を務めるとともに、Tokyo Star Radio（東京都八王子市のFM局）でのパーソナリティなど、芸能・音楽活動にも精力的に取り組んでいる。

【インタビュー】 横野 晋介 中小企業診断士    【写真提供】 安岡 嘉

Interview >>> Hiroko Hayashi

### — The prologue

1970年代半ば、「素敵ナラブリーボーイ」などのヒット曲を飛ばし、大手企業10社以上のCMに出演するトップアイドルだった林寛子さん。結婚・子育て期を経てオープンしたカラオケサロン「ラブリー寛寛」は、開店18周年を迎える。還暦を過ぎた現在、芸能・音楽活動と同店のオーナー経営者、そのどちらにも本気で向き合い、新たなチャレンジを続けている。

本誌執筆陣であり、中学・高校時代に寛子さんのファンクラブの一員として活動していた筆者が、お店の経営者としての寛子さんに話を聞いた。



### 客一人でもミニライブを開く店

— 1970年代のトップアイドルだった寛子さんが結婚、子育て、離婚などを経て、現在はカラオケサロン「ラブリー寛寛」のオーナー経営者を務めています。お店を開くことになったきっかけを教えてください。

離婚後、お仕事も順調でしたが、歌の仕事からは遠ざかっていました。歌が大好きなので、「毎日歌えたらいいなあ」というのが元々

の発想だったんです。そのうち、毎日歌うためには、仕事を待っているのではなく、自分でお店やライブハウスを経営すればいいのでは、と思うようになりました。

ちょうどその頃、「一人でもカフェが開ける」といったことが書かれている本に出会って、「これなら私にもできるかもしれない」と思いました。それで、店舗を一人で探して見つけ、内装も自分が一からデザインして、小さなステージを設けた理想のお店が出来上がったんです。

— お店のシステムを教えてください。

2時間制の「飲み放題・歌い放題」で、男性は6,000円、女性は4,000円です。ミニライブは不定期ですが、一日数回。万が一、お客様が一人しかいらっしゃらなくても開催します。レストランでお客様が一人だった場合、シェフが出てきて「一人なので料理は作りません」というお店はないと思うので、どなたさまにも1回はミニライブを見ていただけるようにしています。聴きにきてくださっ